

国土交通大臣賞

(絵画・版画の部 小学生)



高知県 高知市立第四小学校 4年

市原 未智

国土交通大臣賞

(絵画・版画の部 中学生)



愛知県 知立市立知立南中学校 3年

三浦 祥子

国土交通大臣賞

(ポスターの部 小学生)



静岡県 浜松市立白脇小学校 4年

鈴木 絢女

国土交通大臣賞

(ポスターの部 中学生)



栃木県 塩谷町立塩谷中学校 1年

奥村 有梨亜

国土交通大臣賞 (作文の部 小学生)

題名 「『さぼうえんてい』ってなあに」
静岡県 静岡市立梅ヶ島小学校1年 杉山 隆雅

「らいねんは、やさいがつくれなくなるなあ。」

おじいちゃんとおばあちゃんが、かなしそうにいました。ぼくのうちは、わさびとおちゃのうかです。おじいちゃんたちは、はたけで、おいしいおやさいをつくってくれます。ぼくは、おじいちゃんがつくるしんせんなおやさいが、だいすきです。

「そんなおやさいが、たべられなくなるのは、なぜだろう。」

ふじぎにおもってききました。すると、

「らいねん、おうちのうらに、さぼうえんていをつくるんだよ。こうじのトラックがはいるのに、どうろをひろげるから、うちのはたけが、つぶれてしまうんだよ。」

と、おしえてくれました。おばあちゃんは、

「こうじのトラックが、はいるようになると、いままでのようにあそべなくなるね。」と、いいました。

「どうして、いやなことばかりなのに、さぼうえんていをつくるのかなあ。」

「さぼうえんていってなあに。」

ぼくは、ちょうさをすることにしました。さぼうえんていってというのは、あめがいっぱいふったとき、どしゃさいがいがおきないように、川の下にすんでいる人たちが、あんしんして、せいかつができるようにするために、つくるそうです。

「じゃあ、つくらないとどうなるの。」

ときくと、

「あめで、山がくずれて、いえがどしゃでうまってしまったり、人のいのちがなくなってしまうんだよ。」

と、おしえてくれました。

ぼくのうちから、もうすこしのぼると、うめがしまおんせんがあります。おじいちゃんが、おんせんのどしゃさいがいのことを、おしえてくれました。

「しょうわ41ねん9がつ26にちのよる、たいふう26ごうがじょうりくして、うめがしまに、いままでにないくらいの、おおあめがふって、どせきりゅうがおきたんだよ。とても大きなひがいがでて、いのちがなくなった人が20人もいたんだ。おじいちゃんは、そのながされた人たちをみて、たいへんだとおもって、たすけにいったんだよ。」と、はなしてくれました。

とってもかなしいおはなしでした。ぼくは、しにたくありません。うちもながされたくないです。さぼうえんていをつくれれば、ひがいがなくなるなら、うちのはたけがなくなってもいいです。そとでおもいっきりあそべなくても、さぼうえんていが、みをまもってくれるならいいです。さぼうえんていは、ぜったいにひつようだとおもいました。

ぼくが大きくなったら、大あめをすいとる『大そうじき』をつくってみたいです。そして、水のないくにの人に、水をきれいにしてわたしてあげたいです。

ぼくは、しぜんがいっぱいの、うめがしまがだいすきです。山をいっぱいけずると、山がおこります。木をきりすぎると、どしゃがくずれやすくなってしまいます。にんげんと山が、ずっとずっとなかよく、くらすたらいいなあとおもいました。

このさくぶんをかいたあと、山にちいさな木を1ぽん、うえてみようとおもいます。

国土交通大臣賞 (作文の部 中学生)

題名 土砂災害について

広島県 廿日市市立宮島中学校 2年 鈴木 沙耶佳

船から見る宮島の美しい緑の山の中腹辺りに、2年前の台風による土石流の傷跡が今も痛々しく残っています。

平成17年9月6日、台風14号が来ました。真夜中にサイレンが鳴って、「滝町の人はずっと避難してください。」と放送があり、その直後に「2階など高い所に上がってください。」「外に出ないでください。」と、たてつづけに放送があり、今まで、こんなことはなかったので、私達は何が起こったんだろうと心配になりました。

幸いにも私の町は大丈夫でしたが、宮島の西の方の町が大変な土砂災害に遭いました。

町の道路がドロドロの土砂で大人の太ももまで埋まり、あまりのひどさに驚きました。夜だったから、けが人など人災が少なかったのだとも思いました。これがもし昼間起こっていたら、通行人などが巻きこまれ、大変なことになっていたろうと思うと、ぞっとしました。

大人は、予想外の出来事だったと言いますが、もっと防災に備えがあったら、ここまでひどいことにはならなかったのではないのでしょうか。

真夜中のサイレンはとても不気味で、恐かったです。まして、被害に遭われた方は、生きた心地がしなかったと思います。見上げるほど大きな岩が落ちてきて、土石流はすごいスピードで破壊していくのだと、まざまざとその怖さを見せつけられました。

宮島八景の1つ白糸の滝は、周りの木々が流され原形を留めていませんでした。滝宮神社や道も破壊され泥だらけでした。私は、これを見て、土石流のこわさを改めて肌で感じました。見なれた登山道や景色が見るも無惨な姿になっていました。

その後、私達は工事関係者の方の厚意で、災害復旧現場を見学できることになりました。1年以上たって、災害の傷は至る所に生々しく残って、自然の脅威を感じました。災害現場に行く前に説明会がありましたが、私はその時にはまだそこまでひどい状況だとは思ってはいませんでした。災害現場に向かうまでに、木を切らずにすむように作られたモノレールに乗ったり、行くまでも大変な苦労がありました。

現場では、今にもくずれそうな大きな岩をセンサー付きのワイヤーで止めて、下にいる作業員の人達に被害がないようにしているのを見て、作業をしている人達は、本当に命がけで工事をしていることが分かりました。宮島の人達のために、自分の命をかけて作業をされている方に、本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

災害現場の人達は、建設が困難になるにも関わらず、土石流に流された木を切らずに残し、工事を行っていました。また、工事のためにどうしても除かなければならない植物も一時的に保管しておき、工事が終了後に元にあった場所に戻されるそうです。このように宮島の町を守るための工事は、十分に自然環境に配慮しながら、根気よく行われていました。世界遺産の島で工事をする事は、法律にふれることが多いのでとても面倒です。私はこれを聞いて、私達の見えない所でこんなにも、宮島と自然を守るために考えた災害復旧工事がされていることに感心しました。

工事関係以外にも、災害発生直後から住民を中心にボランティアも集まり、復旧作業が始まりました。こういう風に住民同士が協力できるという事は、素晴らしいことだと感じました。

民家の中には土砂が入ってきたり、破壊された家があったと聞いて、皆びっくりしてました。宮島に土石流が発生したのは、60年ぶりだと聞いています。災害は、本当に忘れた頃にやってくるので、決して油断してはいけないと分かりました。そして、もう二度とこんなにひどい土石流が起こらないでほしいとも思いました。

宮島には、弥山や厳島神社など大切な国宝や世界遺産がたくさんあります。これからは皆で災害に強い宮島を守る為の対策を考えていかなければと強く感じました。